

ふりかえり ワークシート

名前

①見学前のワークシートに書いた「民家園でかくにんしたいこと」のけっかをまとめておきましょう。

②くらしのあかりは、むかしから今までどのようにかわってきたでしょうか。

くらしの <small>あかり</small> について	昔	➡	今
あかりのしゅるい			
あかりのつかい方			
<small>どうぐ</small> 道具			

③火のあかりは木から油、ろうそく、石油、ガスをもやす方法へとかわってきました。では、電気のあかりになったげんざい、電気を作る方法はどのようにかわっているでしょうか。「ふりかえり（しりょうへん）」を見て、しらべてみましょう。

④くらしのなかで運ぶ道具は、むかしから今までどのようにかわってきたでしょうか。

くらしの運ぶ道具 について	昔	➡	今
運ぶ方法			
道具のそざい			
<small>どうぐ</small> 道具のしゅるい			

⑤運ぶ道具は人の力、牛や馬といったどうぶつからのりものへとかわってきました。では、のりものをつかうようになったげんざい、運ぶ方法はどのようにかわっているでしょうか。「ふりかえり（しりょうへん）」を見て、しらべてみましょう。

ふりかえり (しりょうへん)

電気を作る方法のうつりかわり

わたしたちが毎日つかう電気は、発電所という所で作られています。そして電気を作る方法は時代とともにふえ、今はさまざまな発電方法によって電気が作られています。それぞれの発電方法にはいいところ、わるいところがあります。

水力発電	火力発電	原子力発電	太陽光発電	風力発電	地熱発電
 <p>・二酸化炭素を出さない。 ・雨のりょうなどによって、発電のりょうが影響をうける。</p>	 <p>・たくさんの電気を作ることができる。 ・二酸化炭素などを空気中に出不さないたいさくがひつよう。</p>	 <p>・少ないねんりょうでたくさんの電気を作ることができる。 ・放射線にちゅういがひつよう。</p>	 <p>・二酸化炭素を出さない。 ・たくさん発電するには広い場所がひつよう。</p>	 <p>・二酸化炭素を出さない。 ・きせつや時間によって、発電のりょうがかわってしまう。</p>	 <p>・二酸化炭素を出さない。 ・自然公園やおんせん地が近くにあり、かいはつできる所が少ない。</p>



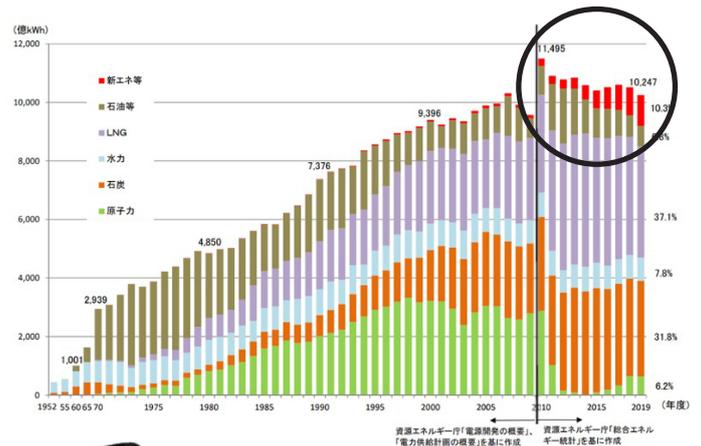
電気のれきし

- 1840年 イギリスで水力発電機がはつめいされる。
- 1887年 日本ではじめての火力発電所がかんせい。
- 1892年 日本ではじめての水力発電所がかんせい。
- 1955年 日本ではじめての太陽電池がかいはつされる。
- 1966年 日本ではじめての原子力発電所がかんせい。
日本ではじめての地熱発電所がかんせい。
- 1993年 日本ではじめて住宅に太陽光発電がつけられる。
- 2004年 日本で風力発電がほんかくてきにとり入れられる。



発電方法ごとの電力量のうつりかわり

(経済エネルギー庁「エネルギー白書2021」より)



グラフの○にちゅうもくしてみましよう。さいきんふえている発電方法はなんでしょう。

もっと考えてみよう

- みなさんのちいきには、どのような発電所があるでしょうか。Web サイトや地図でしらべてみましよう。
- どうしてひとつの方法ではなく、さまざまな方法で発電するひつようがあるのでしょうか。
- グラフで分かるように、いま、しぜんの力をつかった発電がふえています。どうしてふえてきたのか考えてみましよう。

ふりかえり（しりょうへん）

ものの運び方のうつりかわり

わたしたちは毎日、生かつする中でもものを運びます。

また、わたしたちのもとにとどくものは、いろいろな方法で運ばれてきます。

みんかえんでは、人の力で運ぶことをたいけんしましたが、げんざいでは、どのような運び方があるのでしょうか。

人の力	船	てつどう 鉄道	じどうしゃ 自動車・自転車	ひこうき 飛行機
				
<ul style="list-style-type: none"> ・ガソリンなどのエネルギーをつかわない。 ・運べるりょうがのりものに比べて、少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川や海といった水の上をわたりながら運べる。 ・陸ではうごけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・陸の上をはやく運べる。 ・外国などの海の向こうには行けない。 ・線路がないとうごけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道があれば、はやく運べる。 ・鉄道や飛行機、船にくらべて運べるりょうが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国などの海のむこうに行ける。 ・はやくものを運べる。 ・空こうがないとうごけない。

考えてみよう

どうしてひとつの方法ではなく、さまざまな方法で運ぶひつようがあるのでしょうか。

のりものと生かつのうつりかわり

わたしたちもいろいろなのりものによって、移動します。今のわたしたちが、当たり前のようにつかっているのりものも、むかしは貴重なものでした。

のりものがはいつてきて、わたしたちの生かつはどのようにかわったのでしょうか。

鉄道が通る前は、10キロはなれた町まで買いものに行った。
鉄道が通るようになると、近くの町にお店屋さんがあつまってきて、買いものがべんりになった。

（広瀬さん）

はしができる前は、船をつかわないと川のむこうにわたることができなかった。
人のほかに、牛も人といっしょにのって、川をわたった。

（原さん）

100年前は自転車が高級品だった。

かわさきの武蔵小杉の町の中でも、自転車を持つてる家は2つか3つくらいしかなかった。

（原さん）

考えてみよう

みなさんは、いつもどのようなのりものによっていますか。考えてみましょう。